

湯浅八郎の留学経験

アメリカにおけるキリスト教国際主義との出会いとその影響

辻 直人 著

日本のキリスト教教育史に変革を及ぼした体験

同志社総長および国際基督教大学初代学長を務めた教育者・湯浅八郎（1890-1981年）。約16年に及ぶ欧米での留学生活は、彼の国際主義的視野、キリスト教教育観、平和主義的精神などの思想形成にどのような影響を及ぼしたのか。20世紀初頭の在米日本人学生の動向を概観し、新発見の海外史料から明らかになった留学時代の様子を中心に、湯浅の生涯と思想を辿る研究。

《著者紹介》辻 直人（つじ・なおと）… 1970年東京生まれ。明治学院大学大学院国際学研究科博士前期課程、東京大学大学院教育学研究科修士課程、同博士課程修了。博士（教育学）。北陸学院大学人間総合学部教授を経て、現在、和光大学現代人間学部教授。キリスト教史学会理事。明治学院大学キリスト教研究所協力研究員。著書に『近代日本海外留学の目的変容』（東信堂）、『キリスト教学校教育同盟百年史』（共著）、『戦時下のキリスト教主義学校』（共著、以上教文館）、『学び合う教室——金森学級と日本の世界教育遺産』（共著、角川新書）ほか。

